令和３年度「新しい国語」

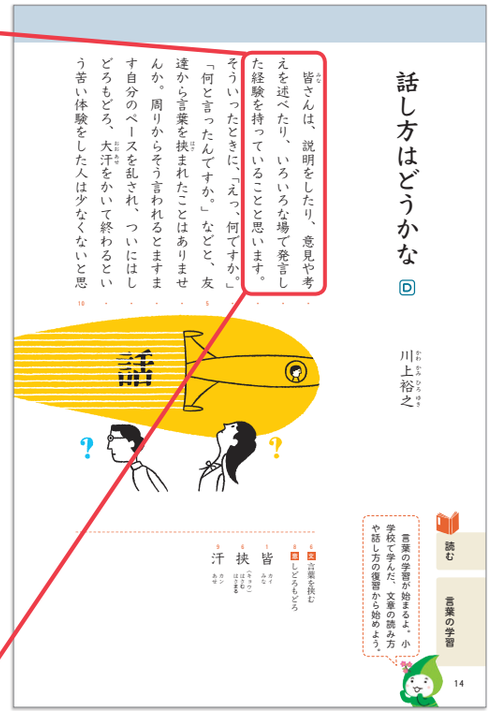
「中一ギャップ」を生まないために

学習の第一歩が軽くなる、冒頭教材「話し方はどうかな」

慣れ親しんだ活字、大きな文字で

最初の教材「話し方はどうかな」では、本文に小学校教科書で使用している教科書体の活字を使用し、文字サイズも大きくしました。小学校から中学校への移行期における学習への抵抗感を軽減しています。

中学１年 「話し方はどうかな」



原寸

皆さんは、説明をしたり、意見や考えを述べたり、いろいろな場で発言した経験を持っていることと思います。

● 発達段階による文字の活字と大きさ（原寸）

小学６年

「ぼくは漁師になる。おとうといっしょ子供のころから、太一はこう言っては

小学校「新しい国語」六年「海のいのち」より（114ページ）

中学１年

この少年にコムラサキを見せた。彼は専門ことを認め、二十ペニヒぐらいの現金の値打

一年「少年の日の思い出」より（159ページ）

中学２・３年

メロスは激怒した。必ず、かの邪知暴虐の王をには政治が分からぬ。メロスは、村の牧人である

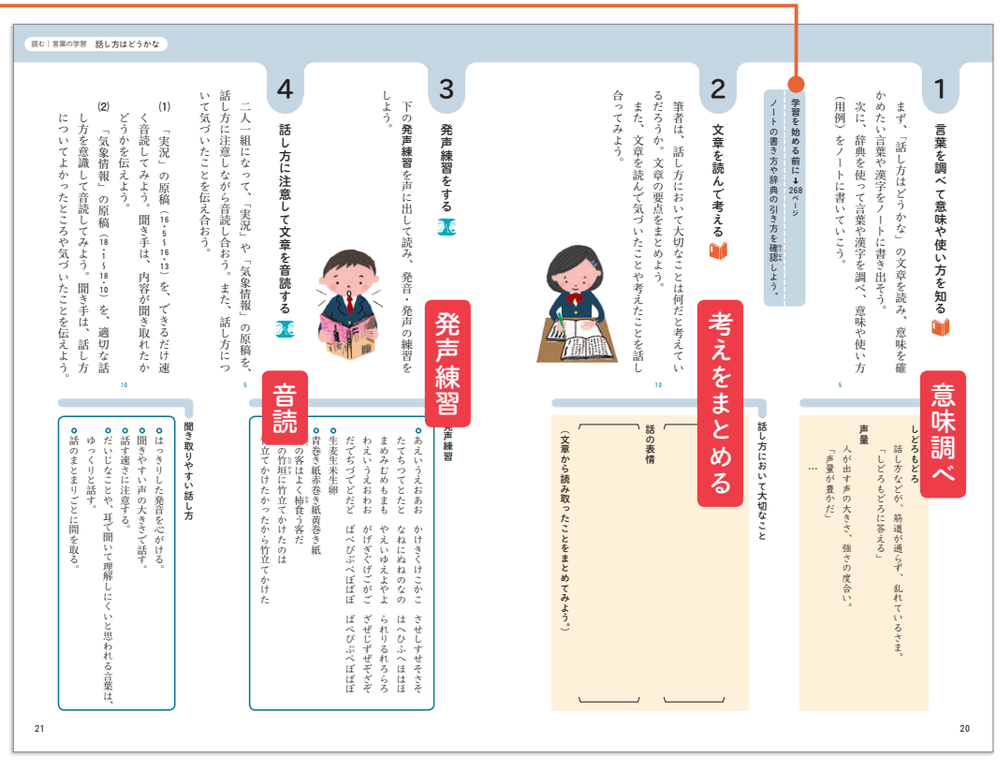
二年「走れメロス」より（152ページ）

漢字の読みに対する配慮

小学校で学習していない漢字には、教材ごとの初出箇所に**振り仮名**を付けました。異なる文脈の中で、漢字とその読みを繰り返し確かめることにより、漢字を読む力の定着を図ります。

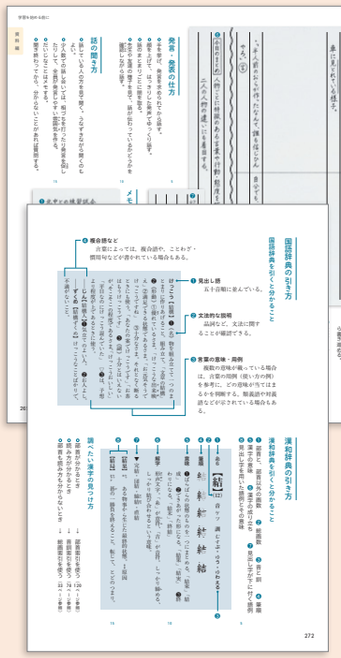
学習の基礎基本をしっかりと

言葉の意味を調べたり、考えをノートにまとめたり、聞き取りやすい話し方で話したりする。これらは、国語の学習の基礎基本です。最初の教材で確かめておくことで、その後の学習に安心して取り組むことができます。



資料編

学習を始める前に（268ページ）



- ノートの書き方
- 発言・発表の仕方
- 話の聞き方
- メモの取り方
- 情報の調べ方
- 国語・漢和辞典の引き方

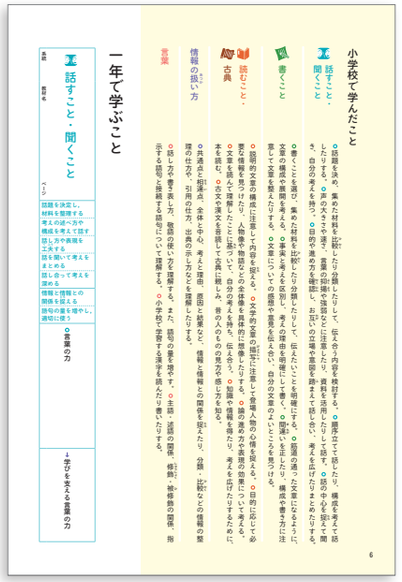
この資料は，令和３年度中学校教科書の内容解説資料として，一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

東京書籍

学習のつながりを意識して

学んだことを振り返る手がかり

目次の後に、前学年までの学習内容と当該学年の学習内容をまとめたページを設けました。一年では、小学校で学んだことと、中学一年で学ぶことをまとめています。学習したことを振り返ったり、これからの学習の見通しを持ったりするのに役立ちます。



1年p.6～
「小学校で学んだこと・一年で学ぶこと」

読み方の基本を確かめて段階的に

一年の文学や説明文では、まずは短い作品で、小学校で学んだことを振り返り、読み方の基本を確かめられるようにしています。その後、段階的に、長めの文章や中学校の学習内容に取り組みます。

文学

飛べ　かもめ

（36ページ）

挿絵も含めて四ページのごく短い小説から、読解の学習が始まります。文学作品の読みの基本として、場面の展開を追って、表現を手がかりに人物の思いを捉えていきます。

さんちき

（42ページ）

「飛べ　かもめ」での学習を生かして、やや長めの小説「さんちき」に取り組みます。「飛べ　かもめ」と「さんちき」には共通の学習目標が設定されており、二作品を通して学びの定着を図ります。

説明文

オオカミを見る目

（62ページ）

小学校で繰り返し学んできた構成「始め・中・終わり」から成る、六ページの短い説明文です。接続する語句を手がかりに、「問い」と「答え」の関係や、段落の役割を捉えるなど、説明文の読み方の基本を確認します。

安心して学べる雰囲気づくり

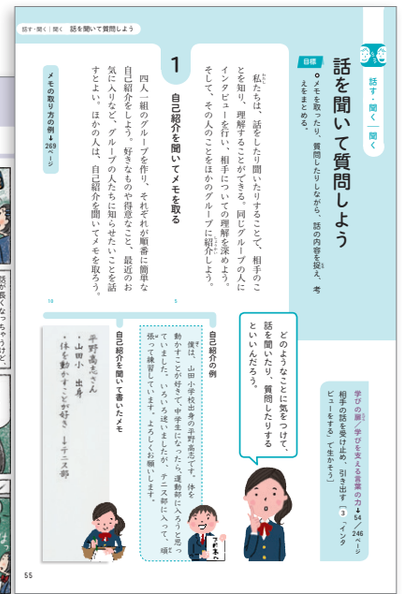
皆で声を合わせて

教科書の巻頭に、詩「風の五線譜」を掲載しています。個性的な存在たちの調和をうたった平易な詩です。声を出して、ともに音読するところから、国語の学習が始まります。

1年巻頭「風の五線譜」

学級内のコミュニケーションを円滑に

一年生最初の「話す・聞く」教材には、簡単な自己紹介を聞いて、質問する活動を行います。出会って間もない生徒どうしがお互いのことを知るきっかけとなることをねらっています。また、「学びの扉／学びを支える言葉の力」でも「伝え合う力」の系統を立てました。コミュニケーションの姿勢や心構えについて考えます。



1年p.55～
「話を聞いて質問しよう」

1年p.54
「相手の話を受け止め，引き出す」

「失敗しても大丈夫」というメッセージを

「新しい国語」には、言葉の精のコトハと、個性豊かな六人のキャラクターが登場します。彼らの学習活動の様子や作品例・話例を参考にしながら、生徒は学習を進めることができます。

実は、このキャラクターたちも、ときには失敗し、どうしたらよかったのかと考えながら、解決策を探していきます。キャラクターのそんな姿も、課題に向き合う生徒のモデルとなることを願っています。